



こさかだより Vol.5



千葉市議会議員 小坂 さとみ 令和3年第2回定例会報告書 2021年07月発行

—みなさまの健康で豊かな生活のために!—

動物は、人類にとって利用の対象であるとともにかけがえのない伴侶であり、大切に扱わなければならない存在であると同時に、適切に管理されなければならない対象でもあります。近年はペットを飼う人が増えており、犬と猫の飼育頭数は2千600万頭を超えています。ペットの増加と並行し、残念ながら社会問題も増加しています。

動物にまつわる社会問題とは?

野良猫による
フンなどの苦情

多頭飼育の
悪臭・不衛生な環境

動物虐待

悪質な
ペット業者

これらの問題を未然に
防ぐための本市の取り組み▶

適正飼養・命を引き受ける

責任を全うして 頂く理解を深める▶



しつけ方教室



飼養ガイドラインの配布

千葉市が描く動物行政のあるべき姿

動物の遺棄や虐待がない、動物が適正に飼養され動物が幸福であること、動物による被害・迷惑のない状態が維持されているなど、人の快適な暮らしと動物愛護との共存

このような動物行政が実現できれば…



①動物保護指導センターに収容される動物数が減少 ②センターに収容された動物の譲渡促進

譲渡会について



本市はセンターを含め複数の譲渡会を開催していますが、現状の譲渡会は開催者ごとに異なる基準で動物の譲渡を行っています。

小坂 さとみの 提案

新しい飼い主に適切な情報を提供するために、本市の譲渡会基準を作成し、均一で適正な譲渡会を実施。

〈統一させるべき各項目〉

●健康状態や、気質評価 ●社会性の合格ライン ●ワクチンや避妊、去勢手術を事前に施すかどうか

* 環境省は、譲渡会で最も大切なことは「譲渡数を増やすこと」ではなく、地域の模範的な飼い主を増やし、ひいては再度センターに引き取られる動物の数の減少につなげること、と指導しており、譲渡支援のためのガイドラインにより基本の流れ、配慮すべきポイント、先進的な事例を紹介している。



多頭飼育崩壊について

多頭飼育崩壊とは、飼い主が適正に飼育できる数を超えた結果、経済的にも破綻し、ペットの飼育ができなくなる状況を言います。こうした現象の背景には、飼い主が抱える困窮などの経済的な問題のほか、高齢に伴う認知症や知的・精神などの障害や疾患などの健康上の問題、周辺の人々との関係性の悪化を原因とした飼い主の生活状況の悪化など、様々な問題があります。

飼い主のタイプ 「高齢者」「貧困者」「独身者」

心理的特徴 人生の中で子供の死や仕事の喪失など、大きな心理的ダメージがきっかけ。

社会問題 不衛生な環境で多数のペットが飼育され、飼い主にもペットにも病気やストレス等の支障をきたす。悪臭などにより、周辺住民の生活環境を損ねる場合がある。

発見者 訪問介護士・あんしんケアセンターなど社会福祉事業関係者。

➡ **課題** 発見しても、どの様に対応して良いかわからない！

市の取り組みは？

早期発見が重要！ 社会福祉関係、ボランティアさんとの連携体制をつくり、あんしんケアセンター管理者会議で情報共有依頼を行った。

小坂 さとみの
提案

早期発見だけでは不十分！

- ①長い目で様々な立場の関係者が寄り添うことが必要！
- ②行政、高齢福祉、精神福祉や児童福祉などの社会福祉関係機関、警察、そして地域の方々と、誰が何をするのかを決めて長期に渡り取り組みを進める。

《理由》

飼育者の背景には入り組んだ家庭内の問題がある。無理に動物を減らすとその方に心理的影響を及ぼすこと、飼い主がコミュニケーションに問題を抱えている場合も多々あること。そして、心を閉ざしている飼育者と信頼関係の構築が必要であることなど。

そこで

国の補助事業を活用しよう！

②は行政が苦手な横連携。政府は複雑化した支援ニーズに対応する市町村における包括的な支援体制の構築を推進するために「重層的支援体制整備事業」に予算を出している。



悪質なペット業者

一部のペット事業者には以下のように悪質な行為を繰り返す者もいます。

1. 動物をモノとして扱う不適切な行為
2. 不衛生で劣悪な環境での飼育
3. 未成熟な動物の販売

多頭飼育崩壊に
繋がることも！

小坂
さとみの
要望

環境省は、6月1日施行された法律で動物取扱事業者へ動物の適切な取り扱い規制を設けている。本市は、現場立ち入り検査の機会を増やし業者への適切な指導を求める。

動物にまつわる危機管理体制

本市の過去避難時アンケートによると動物と同行避難希望者は多数いるが、熊本大震災ではほとんどの人が準備をしておらず、東京都の動物同行避難調査では45%の人が準備をしていないことがわかった。

例)・動物を避難所に連れて行くためのケージなど。
・動物の食料。・動物のトイレ環境。

小坂
さとみの
要望

避難所運営委員会の動物同行避難マニュアルの充実と、感染症予防対応の確立。

動物にまつわる社会問題は、人が原因で起こっています。

動物を捨てる、虐待する、間違った飼い方・・・

私たち人間が自分たちの行動を変えなければ根本的な解決とはならず問題は起きます。

動物愛護センターに収容されたモロ君は、このような表情でした。

今の飼い主が6年後に撮ったモロ君は、とても優しい表情です。適切に飼養すれば、こんなに変わります。

動物に優しい人が住むまちは、人にも優しいまちになると思います。



〈市政に関するご意見をお寄せください〉

【事務所】千葉市稲毛区柏台1-4-603

☎090-8534-8723 ✉sk.kosaka@gmail.com <http://www.kosakasatomi.com>

